



元三大師みくじ関係資料

勝幡寺 元三大師みくじ関係資料 一式

(しょうばんじ がんざんだいしみくじかんけいしりょう いっしき)

山崎四丁目にある勝幡寺が所蔵しています。真言宗 東寺派。本尊は薬師如来立像（町指定文化財）です。本寺には元三大師のみくじ関係資料の版木、みくじ箱、みくじ竹、みくじ筆筒が伝えられています。

版木は、全部で9枚(補作1枚を含む)で、保存状態は良好です。版木には魔よけで信仰を集めた角大師の絵や、大吉、小吉などの運勢の吉凶、説明が彫られています。

角大師とは平安時代の天台宗の中興の祖、良源(元三大師)のことで、寺院や神社で行われる「みくじ」の創始者といわれ、自ら夜叉の姿となり、厄除けの象徴となることを誓ったと言われています。

版木の制作年代は18世紀頃で、全体を通して版木の彫りがしっかりとしていることから、版元である寺が本屋に依頼し、専門の彫師が制作したものと考えられ、版木の優れた例として貴重です。

制作優秀な版木を含む一式揃った元三大師みくじとして、本町の有形民俗文化財第1号に指定されました。



みくじ箱と台座裏の書付



みくじ筆筥

みくじ箱

みくじ箱の表面は漆塗りで、高さ 32.3 cm、幅 12.0 cm、奥行 12.0 cmの角柱です。下部には別製の台座が付いています。

天板にはみくじ竹を取り出す孔があり、底板の中央にもスライド状の取出口があります。

中には番号が記されたみくじ竹 99 本が入っています。みくじ竹は使用頻度が多いため、失ったり、破損したりと後で足されたものもあります。

台座裏は漆が剥げ落ちたため、墨書の書付があったことが分かりました。書付の制作年代の記載は分かりませんでした。表記から江戸時代の制作と考えられました。この書付からは制作に関わった二人の職人の名前（箱職人—善蔵、塗り職人—佐兵衛）も分かっています。

みくじ筆筥

みくじ筆筥は、全高 81.4 cm、幅 71.1 cm、奥行 28.7 cmの長方形で、5列×20段の引き出し式になっています。

裏板3枚、底板は1枚仕立てになっています。左右の側板には取手金具が2個ずつ付き、100個ある引出し中央には環金具が取付けられ、制作には木釘が使用されています。みくじ箋の版木、みくじ箱と同様、みくじには欠かせない資料として、貴重なものです。